



平成 26 年度総会及び第 1 回研修会開催報告

千葉県立保健医療大学にて、平成 26 年度総会及び第 1 回研修会を開催しました。ネットワーク協議会加盟館 26 館のうち 20 館(委任状 6 館)、28 人の参加を得て、総会における議事は全て承認されました。心配されていた雨も止み、南波省吾氏(増田学園図書館)による事例発表、中浴佳男氏(千葉県立保健医療大学図書館)による図書館見学と、非常に有意義な研修会となりました。

日時 平成 26 年 7 月 4 日(金)
14 時 00 分～15 時 00 分:総会
15 時 00 分～16 時 30 分:第 1 回研修会
会場 千葉県立保健医療大学図書館



千葉県立保健医療大学図書館



齊藤誠一 会長



総会

- 1 開会
(1)会長挨拶
- 2 議事
(1)平成 25 年度事業報告について
(2)平成 25 年度会計決算報告及び監査報告について
(3)平成 26 年度事業計画(案)について
(4)平成 26 年度会計予算(案)について
(5)平成 26 年度役員(案)について
(6)その他(報告・連絡等)
- 3 連絡事項
・機関紙(『Network 通信』)の原稿依頼について
・平成 26 年度会費の納入について
・加盟館調査について
- 4 閉会

役員任期満了に伴う改選により、新役員は次のとおりです。

理事	会長	齊藤 誠一	(千葉経済大学総合図書館)
	副会長	古館 生雄	(千葉市緑図書館)
		吉野 知義	(神田外語大学附属図書館)
		居石 幸子	(敬愛大学・千葉敬愛短期大学メディアセンター)
		高橋 正名	(千葉県立中央図書館)
		大山 努	(千葉大学附属図書館)
		奥村 小百合	(放送大学附属図書館)
		泉沢 久美子	(日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館)
		南波 省吾	(増田学園図書館)
監査		鈴木 康夫	(千葉市生涯学習センター)
		荒木 由紀子	(淑徳大学附属図書館千葉図書館)
事務局			千葉市中央図書館

千葉市図書館情報ネットワーク協議会 加盟館一覧(平成 26 年度)

No.	加盟館(室)名	No.	加盟館(室)名
1	放射線医学総合研究所図書室	14	千葉市若葉図書館
2	神田外語大学附属図書館	15	千葉市緑図書館
3	敬愛大学・千葉敬愛短期大学メディアセンター	16	千葉市美浜図書館
4	淑徳大学附属図書館千葉図書館	17	千葉大学附属図書館
5	千葉経済大学総合図書館	18	千葉明德短期大学図書館
6	千葉県立中央図書館	19	東京歯科大学図書館
7	千葉市議会図書室	20	東京情報大学情報サービスセンター
8	千葉市教育センター図書資料室	21	放送大学附属図書館
9	千葉市美術館美術図書室	22	日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館
10	千葉市中央図書館	23	植草学園大学図書館
11	千葉市みやこ図書館	24	千葉市生涯学習センター調査・資料室
12	千葉市花見川図書館	25	千葉県立保健医療大学図書館
13	千葉市稲毛図書館	26	増田学園図書館

事例報告

「教師から見た『読書指導』と学校図書館」

増田学園図書館

南波 省吾

“魅力ある図書館を作り上げるには、総ての教職員の協力と理解が必要”

勤務する増田学園

本校の図書館の現状と読書指導について話をしたい。あくまで一高校教師としての私見である。初任当初から 30 年近く校務分掌上、図書館を担当している。当初は図書館関係の資格も持っていなかったが、図書館司書教諭の資格を取得し、図書館長として現在に至る。担当する教科は国語と芸術科(書道)、担当する校務分掌は教務部教育情報課長・管理厚生部長で、昨年度まではクラス担任も持っていた。部活動は演劇部を指導中。勤務する増田学園は昭和 22 年に千葉洋裁学院として市内の椿森で創立。昭和 39 年に千葉女子専門学園と改称するとともに、市内中央区道場北に移転。洋裁及び幼児教育者育成の専門学校となり、ベビーブームに伴い昭和 54 年 4 月 千葉聖心高等学校・普通科を設置し、現在に至る。また高洲団地の中に実習園として附属幼稚園と附属保育園も持っている。これらすべての書籍部門を総称して増田学園図書館と称している。今回は高等学校の話をする。今年度の高等学校の在籍者数は 3 学年 11 クラスで 300 余名(全て女子)、勤務する教職員数は 40 名弱というごんまりした高校である。



南波省吾氏 増田学園図書館

千葉聖心高等学校図書館の実情

高等学校だけの所蔵数は約 15,000 冊。とても小さな閲覧室だけの図書館なので書庫が無く、所蔵数も他校よりも少なく抑えなければならない。専任の司書はいない。図書館司書教諭の資格のある国語科教諭は自分を含めて 3 名だが、分掌上、図書館に関係している教諭は私 1 人である。図書館の配置場所は、本校舎 3 階の中央部。本校の中では一番初めに冷房設備が整った場所で、当初は涼みに来る生徒で溢れていたのが懐かしい。しかし今では、訪れる生徒・教員が少なく残念。図書館の中に大画面テレビを設置しているレファレンスルームという教室(約 40 名まで収容)がある。設置目的は視聴覚教室及び大教室という設定で、通常の授業や研修会、部活動等で頻繁に使われている。また、毎日の来館者数は、おおよそ 20 名弱。そのうち本を借りに来る生徒は 4・5 名ほど。残りは映画鑑賞が学習室として利用している生徒がほとんどだ。(本校は最新のDVDが揃っている。)

講話者が考える学校図書館

学校図書館とは、学校内で一番の智恵の宝庫でなければならないと思う。紙ベースにしる、端末や記録媒体を駆使した検索資料や機器にしる、すべての頭脳が集中している場所が図書館でなければならない。だからこそ図書館には簡単な読み物から貴重本まで幅広く揃っているのだ。従って、なによりも重要度は優先されなければならないと思うし、そこに勤める者はそれなりの知識が要求されるのも当たり前である。そしてそれなりの予算も計上されなければならないが、それぞれの学校で事情

があるだろうから、すべてが図書館優先と言うことにもならない。しかしあくまで持論だが、学校図書館は、校務分掌上は独立し、何者にも邪魔されずに円滑に生徒・教職員に必要な情報を提供しなければならないと思う。逆な見方をすれば、その学校が図書館をどう扱うかで学校の価値も自ずと決まってくるのではないだろうか。だから私が担任をしている進学クラスの生徒には、大学見学時には「図書館を見て来い、案内をしてくれる在校生の頭髪・服装・言葉遣いを見て来い、そして就職率を見て来い」と事前指導している。高等学校や大学では「図書室」ではなく「図書館」であること意識を全員が持つべきである。高等学校では他校や他図書館との相互関係はそれほど頻繁に行われておらず、自校内で済ませられる程度の利用と授業内容にとどまっている。これは結局、高等学校では書籍に頼る調べ学習ではなく、コンピュータ室でインターネットを駆使した学習へ急速に移行してきていることは否めない。学校図書館利用促進の第1は、やはり広く開かれた図書館だろう。所蔵数や利便性という課題もあるが、何よりも生徒・教職員のために開かれた施設であるべきだ。その上で、ニーズにあった書籍・資料の収集が大切だろう。また情報公開も必要で、「図書館だより」や館内掲示物の工夫も有効だ。本校では図書委員会の生徒達が積極的に受け付け当番や「図書館だより」を発行している。毎年夏休みに、千葉県の司書の会主催で県内各校の代表生徒が集まり研修を行っている。内容は「図書館だより」「図書館新聞」作り、展示の工夫、葉やポップ作り、パンフレットやリーフレット作りの研修等。この研修会を通じて各校の図書委員の交流が深まり、情報交換の場になっている。またこれ

とは別に、図書館関係の教職員対象の「図書館研修会」が2日間行われる。ここではそれぞれの図書館職員が分科会に分かれ、日頃の実践成果を披露し学び、全体会では出版社や作家自身からの講演会がある。残念ながら私は、今年は参加できない。やはり各校の事情を入手できるこういった機会は是非とも参加したいものだ。

千葉聖心高等学校の読書の取り組み

積極的に読書活動をしている小学校の児童はともかく、生徒達の「活字離れ」ということは言われて久しいが、最近になって生徒達が積極的に活字に触れる機会も徐々に増えてきていることも事実である。本校では5年前から読書推進のために各教室に一つずつ文庫本と新書本を中心にした「学級文庫」を別置き、平常時間割りの時には生徒・担任教師・副担任教師を含めて、毎日朝の1時限目前の10分間で読書をする「朝の10分間読書」を取り入れている。公立・私立併せて大体7割程度の学校(県内)が取り入れていると司書の会で報告もあったと記憶している。

私のクラスは「読書記録」をつけさせていて、学期の終わりには私がそれを点検する仕組みになっている。昨年度、私のクラス(3年進学クラス・2年間の持ち上がり)で、一年間で読んだ本の数が最高だった生徒は34冊だった。勿論この中に漫画や雑誌は含まない。「朝読書」を含めて、これだけの数を読んでいるのは本校では珍しい。またこの生徒は、幅広く小説を好んでいた。因みに「国際子ども図書館」によると高校生の一カ月辺りの平均読書数が1.6冊であるので、34冊というのは平均以上をこなしたことになる。次に多かった者は28冊で、先生方が授業中や何かの拍子で紹介した本をきちんとメモし、それを積極的に読んでいた。

「朝の10分間読書」から分かる生徒の読書傾向

「読書記録」から伺える最近の傾向で面白いのは、やはりなんと言っても携帯小説である。とにかく人気もの凄いい。「読書記録」から、33名いるクラスの生徒の約3分の1の生徒が携帯小説を読んでいることが分かった。これらが文庫本として発売されるやいなや女子高生の人気となり、「朝読書」では専らこれを読んでいるのである。しかしこれは決して悪いことではなく、「活字離れ」がそもそもどうして起きたのか、ということを考える良いきっかけではないだろうか。やはり読みやすい、読んで面白い、共感できるという要素があるからだろう。文学的価値という大きな問題は別として、生徒達が読書に慣れるきっかけになるのであれば歓迎しなければならないだろう。事実、本校図書館のリクエストボックスに寄せられる意見には「携帯小説を入れて下さい。」というのが一番多い。生徒達の読書意欲をそそる書籍の形であれば、いかなる形であっても我々図書館に従事する者は研究・照査し、このような新しい書物も歓迎しなければならないだろう。

私は、ことあるごとに生徒達には、「みんなにとっての読書は乱読で構わない。とにかくいろいろなものをたくさん読みなさい。」と言っている。1つのジャンル、1人の作家に執着するのではなく、あらゆるものを手広く読んだ上で、後々じっくり好みのものに当たれば良いのでないだろうか。高校生の内は先ずは乱読で、本に慣れておくことが何より大切だと考えているからだ。

教師の読書離れと意識

時折、各クラスの「朝読書」の様子を見学して回る。ほとんどのクラスは静かに集中しているが、中には朝のSHRを延長し読書の時間を潰してしまう担任もいる。正規の時間割りの中に組み込まれているにもかかわらず「読書」を蔑ろにする。しかし彼らを「以ての外」と憤ってはいけない。たぶん彼ら自身、「読書」の必要性を感じていないからに他ならないからだ。面白いことにベテラン教師にこの傾向が強い。「朝読書」の四原則である「1.みんなでやる」「2.毎日やる」「3.好きな本でよい」「4.ただ読むだけ」は職員に周知徹底されているはずである。この1番の「みんなでやる」は担任教諭及び副担任教諭も含めて「みんな」であると思っているが、生徒だけに読ませておいて担任は読まないで、あくまで監督に徹している人もいる。私自身は教師が積極的に手本を示すことこそが教育だと考えているので、「先生は何冊読み終わったよ」とか、「先生は今これこれを読んでいるよ」とか、クラスで語るようにしている。少なからずこれに影響を受けて本を選んでくれる生徒もいる。

職員室での様子を見ていると、授業の無い時間はパソコンに向かって時間がほとんどであるようだ。空き時間は当然、教材研究や準備の時間であるが、読書も考え方によっては教材研究の一環であると考えるので、教員の読書をする姿が見えないのは大変な残念なことである。また諸々の雑務が多く、そういう時間を持つことがままならないのも事実だ。今後の課題としては、教職員を対象にしたアンケート調査を行ったりして、読書に対する意識向上に努めていきたい。

読書指導の苦痛と苦悩

私たち高校教師が「読書指導」というと、どうしてもそこに教育的価値を見いださなければならないという苦痛がついて回る。本来はもつと気軽に「読書の楽しみ」を教えればよいことなのだが、どうも教師の悪い癖として、「指導」という言葉の元、何かありがたい価値観を見いださなければ「やる意味がない」と位置づけてしまう。さらに困ったことには、「指導」の後には必ず「評価」もしなければならないという責任もついて回る。この「評価」が一番面倒であり厄介なのだ。だから教師は「読書指導」を嫌うのではないだろうか。別に読書に「評価」なんてものはいらないのだ、と私は思っている。しかしどうしても「評価」しなければならぬ場合に我々教師は何をするのか。それが「読書感想文を書かせる」とい

うことである。もう苦肉の策である。高等学校の司書の会では「読書感想文」反対派が大勢いるが、国語部会ではコンクールを主催し「読書感想文」を未だに奨励している。ただし、国語教諭の中にも学校司書の方々同様、「読書感想文」の為に読書をするというのは本来の読書の目的からはずれていてのではないかという意見も多い。

先に紹介した「朝読書」でも、全教職員の理解を得られず「朝読書」が実施に至らない高校があるらしい。私見ではあるが、読書活動が無益であるはずはないのだから、「朝読書」が有効ではないという考え方には反対だ。読書習慣を身に付けさせるきっかけとしては有効の活動だと思う。ただ単に読破の数を競わせるのは如何とは思うが。

新しい提案と支援

生徒達の活発な「読書活動」には、新しい提案と支援も必要だろう。それは図書館の利用にも大きく関わる提案でなければならない。これまでは教師側からの発信によるものが多かったが、活発な読書活動をするには生徒自身による自発的な行動が必要だろう。

学校図書館には「読みたい本がある場所」という考え方もあるが、最近の生徒たちの傾向として、「居心地の良い場所」という位置づけの方が適当ではないだろうか。本当に本が好きで読書の楽しみを心得た生徒は、自発的に一人でも学校図書館なり公共図書館なり、下校途中に毎日本屋に立ち寄ることが出来るし、知識もある。しかしながら、そういうことが出来ない生徒に図書館に足を向けてもらうことこそが、これからの学校図書館としての存在価値では無からうか。だから、読むためではなく、心の安息を求める為の図書館への来館であるべきだと思っている。これまでは保健室や教育相談室がその役目を果たしてきたが、それは余りに特別な状況であり、あくまで特別教室に逃げ込んで来るという生徒自身の負い目もあつたのではないだろうか。それを図書館が受け入れることで特別ではなくなり、何度か図書館に足を向けることで心が落ち着き、その時初めて、そこに配置されている本たちを意識するかもしれない。そしてきっとその時が我々司書教諭なり、司書なりがその生徒に相応しい本の手引きをしてやるチャンスだろう。逃げるためではなく、本を読むために図書館に来るといふ目的に代わる。事実、他校では司書教諭が話し相手をする事で、次年度にはその生徒は図書委員会に立候補してきたという事例があつた。これは生徒が自発的に図書館、本に興味を持ったりした証拠だと思う。学校図書館は徐々にその目的が変わりつつある過渡期的なのだと思う。その変化に我々図書館に従事する教職員も臨機応変に対応できるよう、各方面と協力し、研修等を重ねなければならないだろう。

魅力的な図書館作りと教職員の役割

図書館の来館目的が変わりつつある今、魅力ある

図書館を作り上げるには、総ての教職員の協力と理解が必要である。これからは担当する教科、部署を超えて、幅広く教職員の意見を取り入れ、生徒の目を引く図書館を作ることが大切だ。しかも予算も掛からず、今いる職員の数で行える改革が必要だ。例えば月替わりで教科毎の先生方に展示コーナーを担当して貰うとか、「図書館だより」や「図

書館新聞」の記事を担当してもらうとか、「ブックトーク」や「読み聞かせ」「読書討論会」を図書館職員以外にやってもらうとか考えられる。机の形や照明を明るくするなど、図書館のレイアウトの工夫も大事だろう。生徒達が気楽なスタイルで読書できる場所は確保し、静かに学習できる環境も整えたい。

何をするにしても精練が必要なので、図書館に関する職員研修も積極的に行い、学校図書館が置かれている現状を理解して貰った上で、それぞれの負担にならぬよう教師自身が図書館に足を運んでもらえることが大切だと思う。自分たちで力を合わせて使った図書館だからこそ、図書館を大切に思ってもらえるのではなからうか。

図書館見学

「千葉県立保健医療大学図書館 見学記」

千葉市美浜図書館

中田 修二

“限られたスペースに、機能をぎゅっと詰め込んで、しかも使いやすい”



若い利用者が圧倒的に多い

何かが違う。いつもと違う。毎日、目にしている風景と異なる雰囲気を感じた。若い利用者が圧倒的に多い。特に、女性が。

千葉県立保健医療大学は、学生数 740 名。主に、全学科の 1・2 年生と看護・栄養・歯科衛生学科の 3・4 年生が通う幕張キャンパス、リハビリテーション学科の 3・4 年生が通う仁戸名キャンパスに分かれ、幕張の図書館蔵書は約 7 万冊、仁戸名は約 3 万冊。

必要な機能が、効率よくレイアウト

見学させていただいた幕張キャンパス図書館は、短大から4年制へ移行する際、新たに建てられたもので、キャンパスの中心に位置している。アクセスしやすい1階にあり、ホールは、天井が高く明るくて心地よい。850 ㎡の面積に、必要な機能が、効率よくレイアウトされている。

入るとすぐ、医学系等の専門分野の雑誌が展示されている。君たち、もちろん、言っていること、わかるよね。しっかり勉強しなさいねえ。と、本が語りかけ、プレッシャーをかけているようである。ついつい、ファッション系の雑誌を用意せねばと、思ってしまう公共図書館とは違う。

きめ細やかな配慮

閲覧席にもきめ細やかな配慮がなされている。6人テーブルの席、4人テーブル席、隣と前にパーテーションのある席など、様々である。しかも、PCネットワークに接続できるようになっている。1人で

集中したいとき、なんとなくみんなの顔をみながら勉強したいとき、その日の気持ちに合わせて、130の席を選べるようになっている。うらやましい限りである。

ビデオテープも現役で活躍しているという。保健医療の世界では、生身の肉体に向き合う。貴重な映像資料として、他に代えがたいものを大切に保管し、閲覧できる状態にしている。保存スペースの確保など、なかなかできないことである。

限られたスペースに、機能をぎゅっと詰め込んで、しかも使いやすい。面積がほぼ同じ図書館の館長として、参考にさせていただこうと思う。



中浴佳男氏 千葉県立保健医療大学図書館

千葉県立保健医療大学 幕張キャンパス図書館 データ

所在地: 千葉市美浜区若葉 2-10-1

TEL: 043-272-2987

FAX: 043-272-2988

開館日時: 月・金 8:45-21:00、火～木 8:45-20:00、土 9:00-17:00、休業中(月～金 9:00-17:00、土休館)

休館日: 日・祝日・年末年始・毎月最終木曜日・休業期の土・特別整理期間

利用対象: 学内者、卒業生、医療従事者

※外部の方は、カウンターで利用申込が必要
その他: 『医中誌 Web』、『最新看護索引 Web』、『JDreamII』、『メディカルオンライン』、『CINAHL with Full Text』、『OvidSP』、『Oxford Journals』、『ScienceDirect』、『SpringerLink』等保健医療関係の文献探索に有用なオンラインデータベースや、オンラインジャーナルを導入
千葉県立保健医療大学図書館 HP:

<http://www.pref.chiba.lg.jp/hoidai/kyouiku/toshokan.html>



1/ 書架の見学。大学の特色から、医療系の資料が多いとのこと



2/ 図書自動貸出装置 3/ 雑誌コーナーと、本の展示。雑誌コーナーは、医療系が主。面展示で豊富な種類のみならず、視覚的にも選ぶ楽しさがある



4/ PC席。多くの学生がPCを活用している



5/ 間仕切りのある座席で、集中して読書・勉強ができる。各席に設置されたスタンドライトに、勉強を頑張る学生への心遣いを感じられる



6/ 図書館入口。入口はガラス張り、外から館内の様子が分かる

千葉県図書館情報ネットワーク協議会は、千葉市内の館種を越えた図書館ネットワークを通じて、情報提供能力を強固にし、図書館サービスの向上を図ると共に、学術研究及び生涯学習の発展に寄与することを目的として、平成 6 年 1 月に設立。
このNetwork通信は、加盟館の情報交流並びに協議会の活動状況を加盟館利用者等にお知らせすることを目的とし、平成 10 年 10 月から発行している。

Network通信 No.43 2014 年 10 月 1 日発行

千葉県図書館情報ネットワーク協議会事務局:

〒260-0045 千葉市中央区弁天 3-7-7 千葉市中央図書館内

TEL 043-287-3980 FAX 043-287-4074

千葉県図書館情報ネットワーク協議会 HP: <http://www.ccal.jp/>